

新型コロナウイルスと闘いましょう！ 密閉、密集、密接を避けて、手洗い、うがいを忘れずに！

“ふるさとちば”のための政策推進を

茂呂つよし県議会レポート

発行/自由民主党千葉県議会議員会

〒260-0855 千葉市中央区市場町2番13号 電話043(227)7411

道の駅 防災機能更に強化を

地震被害想定見直し進める

2月議会一般質問



質問に立つ茂呂県議

住み良いふるさとづくりに力を注いでいる茂呂剛県議（八千代市選出）は2月定例会県議会で一般質問に立ち、防災対策や教育政策について、熊谷俊人知事ら執行部に質問しました。地震被害想定の見直しや小学校での塾講師活用など、茂呂県議の質疑と熊谷知事ら県執行部の答弁を紹介します。

来年度にボーリング調査

茂呂議員 本県は「千葉県地震防災戦略」を策定し、これをもとに地震対策を進めているものと認識しているが、どのように進めていくのか。

知事 本県に大きな被害をもたらすことが予想される千葉県北西部を震源とする地震を想定し、その被害をおおむね半減させること

を目標として、平成29年度に地震防災戦略を策定した。

この戦略では、住宅や橋梁の耐震化などの予防対策の推進や、防災訓練の実施

による災害対応能力の向上、防災教育などの対策について数値目標を定めており、進捗状況を確認しながら、これらの対策を進めて

いる。

なお、現在の地震防災戦略は令和8年度を終期としているが、更なる被害の低減を図るため、これまでの対策で得られた効果や、社会情勢の変化、最新の科学的知見等を踏まえた新たな戦略を策定し、引き続き地震対策を進めていく。

茂呂議員 地震防災戦略改訂に向けて、地震被害想定調査の実施が、来年度の新規事業として、挙げら

れている。地震被害想定をどのように見直すのか。

防災危機管理部長 新たな地震防災戦略の策定にあたっては、まず、地震や津波の影響による人的被害や避難者数、建物の全壊、半壊棟数などの地震被害想定を見直す必要がある。

そのため、地盤の状況や、建物・人口の分布等を改めて調査した上で、耐震化や、火災・津波対策などの進展、最新の科学的知見などを踏まえ、被害の試算を行う。

国も、県内で唯一「防災道の駅」に指定し、防災機能の強化に向け、国や八千

来年度は、試算に必要な地盤データを得るためのボーリング調査を行うほか、専門家の助言を受けながら、想定する震源の位置などについて検討していく。

要望

茂呂議員 大規模災害時には、全国から自衛隊・消防・警察の救援部隊や救援物資が届けられるが、「道の駅やちよ」は支援活動の拠点の一つだ。

代市において防災トイレの設置や施設の無停電化の設計を行っていること聞いており、非常に重要な役割を担うべき施設だと考えている。大規模災害時には、主に警察の部隊が集結することが想定されていると聞いていて、部隊の「待機場所」だけでなく、フェイズフリーの考え方を取り入れて地域住民や道路利用者、多くの観光客等の安全・安心を守るため、何が必要か、何が準備できるかなど、関係者の声をよく聞きながら、防災機能の強化について、県の協力を継続するとともに、必要に応じて、国や八千代市にも働きかけていただくよう要望する。



県内唯一の防災道の駅に指定されている「道の駅やちよ」

●県政と八千代市に関するご意見・ご要望をお聞かせください。

茂呂つよし 県事務所
〒276-0046 八千代市大和田新田1092-7
TEL047-480-0244 FAX047-458-7033

活力あふれる地域目指す

小学校教員の指導力育成

茂呂議員 昨年の9月議

会で我が党の阿部議員から学力向上施策について質問したところ、県教育委員会として記述力や探求力の育成に取り組んでいくという力強い決意をもらった。

ぜひ進めてほしいと思うが、子どもたちの学力向上には、日々の授業における先生方の指導力が大きく影響する。

先生方は、それぞれ指導力を高めようと取り組まれていることは承知しているが、コロナの影響もあって、以前のように研修会に参加できなくなり、校内で先輩などから学ぶことも難しい状況だと聞いている。

このような中、特に課題だと思えるのは小学校だ。小学校の先生は、一人で全教科を教えるなくてはならないから、指導力を高める努力は、何教科分も必要になる。

小学校で子どもたちは一度つまづくと、苦手意識は中学校から高校にも影響する。基礎を学ぶ小学校の時期にこそ、わかる授業をしかり行うことが、県全体の学力向上に重要だと思う。

そこでどう。子どもたちの学力向上を図るため、小学校教員の指導力育成にどう取り組むか。

教育長 学力向上には、教員が専門性を高めるとともに、専科指導を充実させることにより、どの学級においてもわかる授業を行うことが重要。県教育委員会は、小学校中学年に退職教員を専科教員として配置

し、専門性を生かした指導を行っている。

次年度からは、高学年の専科指導に外部人材として塾講師を活用することを計画している。民間のノウハウを教科指導や研修に活かして、子どもたちの学力向上を推進する。

茂呂議員 塾講師は、教科の指導力に定評があるの

で、学力向上のために外部人材を活用することは大変良い取り組みだと思う。

ただ、小学校には、学力だけでなく、発達や生活態度も含めて様々な子どもたちが在籍しており、学校の先生はこういった子どもたちの状況に合わせて指導している。

試験的な取組でも、実際に教壇に立ち、授業を行う

わけだから、どのような状況でもしっかり教えることができる講師を選ぶことが大切であり、そのことがこの取組の成果につながる

わけてから、どのような状況でもしっかり教えることができる講師を選ぶことが大切であり、そのことがこの取組の成果につながる

わけてから、どのような状況でもしっかり教えることができる講師を選ぶことが大切であり、そのことがこの取組の成果につながる

わけてから、どのような状況でもしっかり教えることができる講師を選ぶことが大切であり、そのことがこの取組の成果につながる

わけてから、どのような状況でもしっかり教えることができる講師を選ぶことが大切であり、そのことがこの取組の成果につながる

わけてから、どのような状況でもしっかり教えることができる講師を選ぶことが大切であり、そのことがこの取組の成果につながる

わけてから、どのような状況でもしっかり教えることができる講師を選ぶことが大切であり、そのことがこの取組の成果につながる

出席から再質問する茂呂議員



サイクリングロード

整備促進

茂呂議員 自転車は多くの人々に利用される乗り物である。また、健康増進も期待され、環境にやさしく、観光振興や地域活性化にも寄与するとして、近年、その活用の重要性が増している。

安全かつ快適にサイクリングを楽しむために、サイクリングロードの環境整備が望まれるところだ。

県内にもいくつかサイクリングロードはあるが、特に、県内二つのナショナルサイクルートとなった太平洋岸自転車道については、利用環境の充実を図り、利用者をさらに増加させることが重要と考える。

そこでどう。太平洋岸自転車道の利用促進に向けた取組み状況はどうか。

県土整備部長 太平洋岸自転車道は、銚子市から和歌山市に至る延長約1400キロメートルの自転車道であり、昨年度、国から日本を代表するナショナルサイクルートに指定された。

のだと思う。そこでどう。指導力のある塾講師をどのようにに選定するのか。

教育長 講師の選定においては、塾での指導や教員免許保有等の状況に加え、立案された指導計画から指導力を判断し、選定することとしている。

県では、これまで沿線市町村等と連携し、デザインを統一した案内看板や休憩施設となるサイクルステーションの整備など、走行環境の改善に努めてきた。

今後は、地元市町村と鉄道や空港会社等が行うサイクルツーリズム推進に向けた取組と連携して、観光振興や地域活性化に繋がるよう、自転車道の利用促進に努めていく。

習生の失踪や、一部の不良化した外国人による各種犯罪が不安視されており、在留外国人の増加に伴う治安への影響が懸念される。

一方、少子高齢化による労働力不足のため、外国人材の受け入れは拡大するものとみられ、外国人と日本人が共に安心して暮らせる社会の実現が重要になると考える。県警は、県民と在留外国人が共に安心して生活するため、どのような対

誰もが安心して暮らせる社会に

茂呂議員 近年、技能実

策を行っているのか。

県警本部長 県警は、関係行政機関と情報共有を図りながら、在留外国人を孤立化させることなく、社会を構成する一員として受け入れていくとの観点に立ち、留学生、技能実習生及び、その受入企業に対する防犯講話や交通安全講話の広報啓発活動や、移動交番車等を活用した意見要望の把握、情報発信活動等の各種活動を積極的に実施している。

また、不法滞在事犯や違法行為に対しては厳正な取締りを実施するほか、在留外国人の実態に応じて繁華街等の安全確保に向けた各種対策を実施している。

今後、県民と在留外国人がともに安心して生活できるように総合的な対策を推進している。

茂呂議員 地元住民と外国人が対立してしまうことのないよう、県警には引き続き、各種対策に取り組んでいただきたい。

茂呂議員 千葉市の花見川サイクリングコースと、八千代市の新川遊歩道、そして県道八千代印旛栄自転車道線が繋がるといふ、東京湾から花見川、印旛沼を経由して利根川までサイクリングロードが繋がるが、県道八千代印旛栄自転車道線の一部が完成していないと聞いている。整備状況はどうか。

県土整備部長 当該道路は、八千代市保田地先の阿宗橋から、印旛沼や長門川に沿って利根川沿岸部の栄町和田地先に至る、延長約27キロメートルの自転車道。

これまでに、八千代市側の約22キロメートルが完成し、残る栄町側の約5キロメートルについては、現在事業中の長門川の河川改修に合わせて整備を行うこととしている。

なわ、整備が完了するまでの間、国道356号などを代替ルートに設定し、案内看板や路面標示を設置している。

茂呂議員 県道八千代印旛栄自転車道線が全線開通することにより、東京湾から花見川、印旛沼を経由して利根川に至るルートが繋がり、さらに利根川沿いを通り、太平洋まで繋がる魅力的なサイクリングルートが完成する。

私は、これを新たなナショナルサイクルートの候補として提案したい。

八千代市内でいくつか課題はあるが、まずは、県道八千代印旛栄自転車道線の残る5キロメートルの整備を早期に進めるとともに、関係者間で連携し、新たなナショナルサイクルートの指定を目指して取り組んでほしい。